

英語教室とメキシコ料理店のコラボレーションによる顧客満足度と知名度の向上

ECCジュニア王子保教室と メキシコ料理店アミーゴタコスの連携(福井県)

～会社概要～

ECCジュニア王子保教室は、現在4日間の授業で43名の活発な生徒を、顧客満足度の向上により、来年度は5日間授業で54名に増やし収益増加を狙っていた。

メキシコ料理店アミーゴタコスは、新商品を開発してイベント出店による売上増加と、知名度をアップして来店客数増加による売上増加を考えていた。

1. 相談のきっかけ

- ・ECCジュニア王子保教室の原野講師は、当拠点での知り合いの相談に同席し、CCOの真剣な相談対応に魅力を感じて、後日自分の教室運営に関して相談した。
- ・また、アミーゴタコスは越前市主催の女性創業者支援セミナーで当拠点を知り、相談を申込んだ。



ECCジュニア王子保教室の原野講師

2. 課題整理・分析

- ・原野講師は、共稼ぎ率の高い地域で、子供達に英語教育しており、更なる生徒募集のために、広告費を掛けずに、生徒や両親の満足度を上げて、口コミで宣伝して貰う方法を相談。
- ・アミーゴタコスはJR武生駅前で4年前からメキシコ料理店を開業しているが、メキシコ料理自体の知名度が低く、知名度向上策を相談。
- ・両社が協働することにより、双方にメリットが生ずるのではないかと分析した。



発表会風景



アミーゴタコスのブリトー



ブリトーの作り方指導



3. 解決策の提案

- ・ECCジュニア王子保教室の発表会を開催し、生徒達の英語力の発達具合を両親、祖父母に見てもらい、満足度を上げることとした。また、アミーゴタコスと連携し、発表会のお楽しみイベントで、家族の分のブリトーの注文を生徒達が英語でやり取りすることにより、両親達に子供の英語力の成長具合を体感してもらうことを提案。
- ・また、当拠点から、連携している丹南ケーブルテレビに発表会の模様の取材を依頼。

4. 成果

・発表会のお楽しみイベントでは、福井大学の留学生達がアミーゴタコスの店員役となって生徒達の好き嫌いを含め、同行家族全員のブリトーの注文を生徒達と英語でやり取りし、注文に沿ってブリトーを作り、手渡した。これにより、両親や祖父母達は子供達の英語が通じたことを実感し、原野講師の英語教育に満足した。

また、発表会の様子は地元ケーブルテレビで1週間に亘り放送された。この効果もあり、昨年同時期の入学申込は1名のみだったが、今期の新入学申込は既に8名を数え、来年度の教室の追加も決定し、募集を終了したクラスもある。本年度の受講生は43名だが、来年度は54名枠を満たす勢いとなっている。

・アミーゴタコスでは、このイベントを通じて店の知名度向上と共に、注文に応じた100個ものブリトーの効率的生産方法を確立でき、今後のイベント出展時の対応を可能とした。また、お楽しみイベントの際に留学生の中に2名のイスラム教徒がおり、急遽ハラール対応したブリトーを作った。この経験を生かし、福井県内にはハラール対応できるレストランが1軒しかなく、イスラム教徒の方々が嘆かれているとのことであったので、ハラール対応の新メニュー開発にも着手した。



マスコミの取材



留学生に英語で会話を楽しむ子供達



発表会の参加者達